

# 老若コラボによる「現代の課題」 ブックレット編集制作

## 1 目的・概要

このプロジェクトでは、世代をこえた対話的関係の可能性が問われています。研究開発あるいは企業活動の現場における双方向的な人間関係の有利性というまでもありません。しかしそのような創造的な場面でさえも多くの場合、現場から離れる老人世代とこれから現場に入る若者世代とが、部分的であれ歴史意識を共有することはまずありません。こういった歴史意識・社会意識の世代を



こえた創出・共有プロセスの実現自体が、このプロジェクトの大きな主題です。学生の主体性に力点を置く「プロジェクト科目」の双方向的関係性をいかし、老若が直接向かいあい時間をかけて語りあうことによって、現代と未来の問題を手作りで描きだし小冊子に編集する——学生自身による問題発見のためのワークショップ、老人とのインタビューなど、計画準備から成果発表まで、学生の創意工夫によって行います。またブックレットの編集制作および他世代との対話を通じて、自己の客観視及び批判的思考の醸成を図ることで、社会との関わり方やその意味を見出す事を目標としています。

### Annual Schedule

2020年	4月	プロジェクトの理念設定及び日録の開始
	5月	ブックレット制作方針決定
	6月	各個人テーマの設定とその発表・議論
	7月	各個人テーマの設定とその発表・議論
	8月	日録及び「前期を踏まえて感じた事」をレポート化
	9月	ブックレットの製作開始、ゲストスピーカーによる編集指導
	10月	各テーマに関するインタビュー実施
	11月	ブックレットの校正継続、ゲストスピーカーによるデザイン指導
	12月	ブックレットの完成

## 2 成果達成度

### 1. 世代の壁をこえて対話する力

ブックレット作成の為に編集作業においては、特に重要な事項をブックレットに盛り込む上での添削や指導を通して、世代間での意見の相違が多くみられましたが、お互いの意見を尊重し、時には論戦を交えながら、最終的に一つのブックレットを完成させたという事実が、今回のプロジェクト科目の成果であると考えています。

また、インタビューを通して己の価値観とは全く違う考えをもっておられる方々と対面する事も多々ありましたが、議論を重ねる事で意思疎通を重ね、他の価値観を吸収することが出来ました。



### 2. 問題を発見する自分への気づき

ブックレットの原稿を作成する中で、互いの原稿にたいする論議・推敲を重ねる事で、他者からの批判や自分自身への批判を通して、自分の中の曖昧な価値観や思考に気づくことが出来ました。

### 3. 批判的思考と自己の客観視

従来の常識からいったん離れて社会に対する意見を述べる事で、批判的思考を養いました。また、社会を批判するとともに、自分の担当する原稿を何度も推敲し、読み重ねる中で、変わりつつある自身の価値観を客観的に認識することを意識していました。



### 4. 社会に関わろうとする意識

自身が注目している社会課題に対して一年という時間を掛けて向き合い続ける中で、以前は感じなかった違和感や矛盾を認識することが出来ました。そういった矛盾や疑問をベースに、日々起こる社会問題や事例を検討する事で、自分自身なりの意見を構築しました。前期は課外活動をする事が出来ませんでしたでしたが、培った価値観は、今後の社会とかかわろうとする意識における重要な基盤になると考えています。

# 3 プロジェクトを通じて

今回のブックレット制作やインタビューを通じて関わってくださった方々から、若者世代にはない価値観や視点を、経験をベースに伝えていただき、自分自身の弱さや社会における役割を考える事が出来ました。私たち若者世代の多くは、生きることへの関心が希薄化しているといわれている。それは、さほど関心を持たなくても、生命として

の危機にさらされることが殆ど言ってもいいほどに無いからだと思います。また、日々の生活に追われている間に、少しずつ社会の一員として生きているという感覚が失われてゆく気がします。そのこと自体に気づくことが出来たのが、財産であり、大きな前進です。

本格的なブックレットの制作にかかわったのは、今回が初めてですが、最終的には形として、メンバーの各々が、この一年間で出した答えまでの過程を、記録することが出来て良かったです。加えて、様々な方面の方の協力を得ながら完成にこぎつけたという事も、大きな経験として又は自信として、今後のより良い人生の糧になるだろうと考えています。



## 編集後記

お読みいただきありがとうございます。コロナショックで開講も危ぶまれた本授業でしたが、春学期はオンラインでの授業が何とか成立し、なんとか一冊の本という形になるまでに至りました。

今回は、我々若者世代が年の離れた方々と関わり、考えを共有しました。精神的にも物理的にも世代間分断を余儀なくされている風潮に対して、世代が異なる他者を「ただの他人」と片付けるもったいなさのようなものを感じ取ることができました。授業を担当していただいた先生方、インタビューに協力して頂いた4氏、SAの中野くん、そして編集のお力添えをいただいた水口さん。1年間本当にありがとうございました。

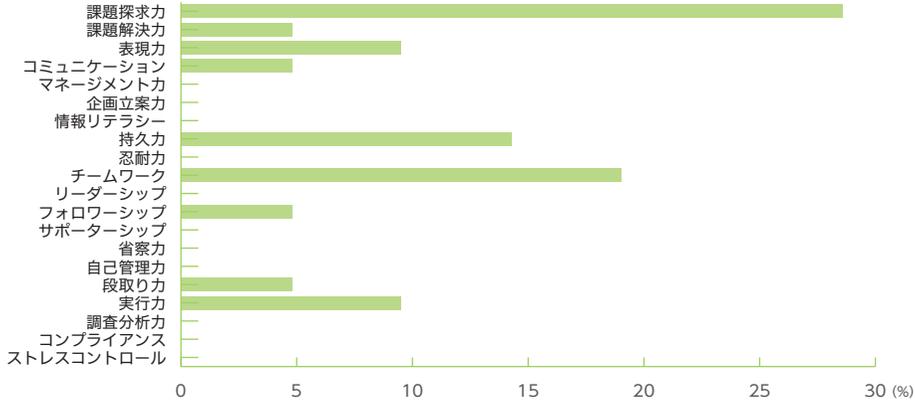
## プロジェクトメンバー

藤田 悠我(法3) 東口 晃(法3) 増田 憲太郎(法3) 小畑 美波(法3) 高橋 奈央(法3) 望月 佑菜(経済3)  
奥村 勤仁(経済3)

## プロジェクト活動 アンケート集計結果

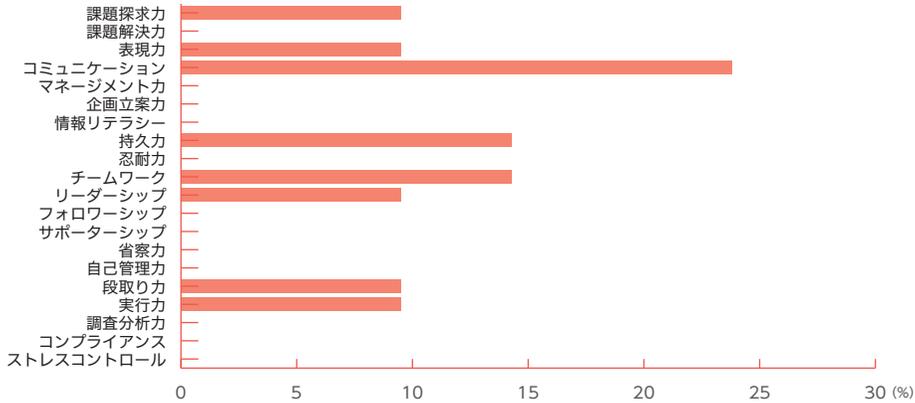
### 秋学期開始時

Q1 チームとしてのプロジェクト活動に「必要と思われる要素」を選んで下さい



### 秋学期終了時

Q1 チームとしてのプロジェクト活動に「必要と思われる要素」を選んで下さい



Q2 プロジェクト活動を通して実際にあなたが「身についたと思う要素」を選んで下さい

